

社会福祉協議会会長賞

堺市立 福田小学校 六年

川嶋 和心

いじめをなくすために

私は、いじめを受けたことはありませんが、いじめの初期段階のようなものを見たことは何度かあります。私が見てきたなかで感じるのは、高学年になるにつれてみる回数が多くなり、やり方が変わってきているということです。低学年のうちには、ほとんどみませんがあるとしたら暴力など目にみえるものばかりです。ですが、高学年になるにつれて言葉の暴力がふえて、目にみえにくくなります。私はこの、目にみえにくくなる、というのが一番の決定的なちがいだと思っています。大きくなっていくにつれ、人間は多くの言葉を学びます。その言葉、本来は人の気持ちを受けとったり、伝えたりする手段を、人の心を傷つけるナイフとして使います。言葉は目にはみえません。ですから、口がかたい人であれば、気づきにくいのです。

ここで、いじめの原因について考えたことをお話しします。私はよく、いじめられたなどの相談をよくうけます。そこでおたがいのなしを聞きました。ところが、これがなかなか原因がつかめません。この経験をふまえたうえであらためて気づいたこと

は、いじめる原因がいまいちあやふやだということです。一人の人間が原因もなしにいじめられて傷つくのはもう意味がわかりません。もちろん、原因があるからといって人を傷つけるのは、けつして、ゆるされたことではありません。ですが、原因があれば解決することができます。だれかが仲介者になり、おたがいのなしを聞き、別に仲よくならずとも、いいきよりかんをおけるようにする。これができれば、いじめが起きることは防げませんが、いじめられた人がへり、いじめがくり返されることも減ると思いませんか。

また、私は人をきらいになることについて考えてみました。いじめのだいたいの原因は人間関係のトラブル。この人が苦手だからという理由です。人間生きていればかならず、自分とはちがうタイプの人と出会い、きらいになることもあるでしょう。ほとんどの方が、きらいな人がいるとは思いません。そこでせいぎよできるか、わかれ道になると思います。きらいな人がいるのはしかたがない、だからといって、傷つけるのはちがうそう思えたらいい

いと思います。そんなのきれいごとだという人もいるでしょう。ですが、だれかが折り合いをつけなければ、この問題はおわりません。これは、たくさんの人がいて、たくさんの考えがある社会において、とても大事なことだと思います。このようなことを学ぶ場が学校だと、私は思います。いろんな人がいて、いろんなことを体験し、いろんなことを学ぶ。社会とじていませんか。ですから、学校でいじめがおわらなければ、大人になってもいじめがなくなることになると、私は思います。私は、いじめを完全になくすことは、正直、とても難しいことだと思っています。ですが、一人一人の意識のしかたで、長い年月をかけながら、なくすことはできると思うのです。その意識というのが、「人間生きていけば、しかたがない」というものです。さきほどにもあつたように、きらいになることはしかたありません。そこでどれだけゆずりあえるか。その意識をはじめて持てたとき、小さく、けれど大きなはじめのだい一歩になるのです。

